

# 旅行報告書

会派名 公明党

会派代表者 牧下 恭之

平成 27年7月21日

旅行者氏名	旅行者氏名
牧下 恭之	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 平成27年7月14日( 火曜日)から

平成27年7月16日( 木曜日)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
大分県豊後高田市	・定住促進事業について
宮崎県日向市	・新庁舎建設構想について
鹿児島県霧島市	・木質バイオマス発電事業について

# 公明党会派視察

参加者: 牧下恭之・松本和幸・岩坂雅文  
福田斉・中村幸治・田口憲雄

【2015年】

7月14日 豊後高田市 定住促進事業

7月15日 日向市 新庁舎建設構想

7月16日 霧島市 木質バイオマス



# 豊後高田市の定住促進策

より定住促進策を実施した。

大分県豊後高田市地域活力創造課



地域活力創造課 定住促進係  
主幹 大塚 佳代

豊後高田市概要  
平成17年3月31日合併  
旧豊後高田市  
真玉町  
香々地町

平成27年3月31日現在  
人口 23,444人  
高齢化率 36%  
市内全域が過疎地域に指定

豊後高田市のすが  
平成24年度  
死亡数-出生数=216名  
転入者数が転出者数を83人社会増

平成18年より、定住促進策に取り組んできた豊後高田市は、「夢をかたちに、未来に光続けるまち」をめざし、人口3万人を目標に掲げている。

市中心部の「昭和の町」は、まちづくりの手法が高い評価を受け、各方面から多くの賞を受賞しており、豊富な文化的観光資源と相まって、毎年多くの感顧客がきている。

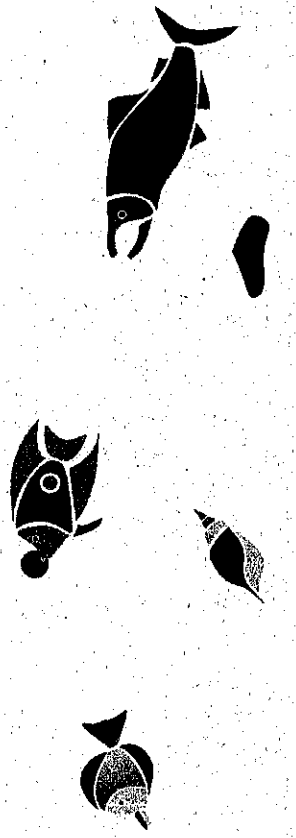
また、古くは室町時代、九州最古と伝えられた私塾などの学問が盛んだったこともあり、現在は市営の無料塾など地域と一体となった取り組みで、子どもたちの学力は長年トップグループを誇り誇るとともに、スポーツにおいても全国及び大分県大会の上位入賞が相次ぐなど「教育のまち」として全国に発信されている。

さらに、安い保育料、室内公園、病後児保育事業、大型遊具などの整った「中央公園」、最新の情報システムが導入されている「市立図書館」など、子育てしやすい環境が整っている。

「住みたいまち」にふさわしい、他に類をみないユニークできめ細やかな支援策を定住ガイドブックにて紹介している。

## 移住者実績

平成25年度 121世帯 237名  
平成26年度 117世帯 247名





# 「日向市新庁舎建設基本構想」の概要

## ◎新庁舎建設の必要性

### ○防災拠点施設としての重要性

市庁舎は、災害発生時の対策本部としての機能はもとより、被災後の住民生活やまち全体の復興・復興に欠かせない行政情報等の維持・確保といった重要な役割を担っています。しがしながら、現在の庁舎は、老朽化に加え耐震性にも問題を抱えるなど、防災拠点施設としての脆弱性が大きな課題となっています。

### ○市民の利便性と市民サービス上の課題

現在の庁舎は、別館の増築等により、窓口が分散して分かり辛く、利用者の利便性など、市民サービス上の課題があります。更に、段差が多く通路が手狭であるなど、バリアフリーの観点からも問題があります。

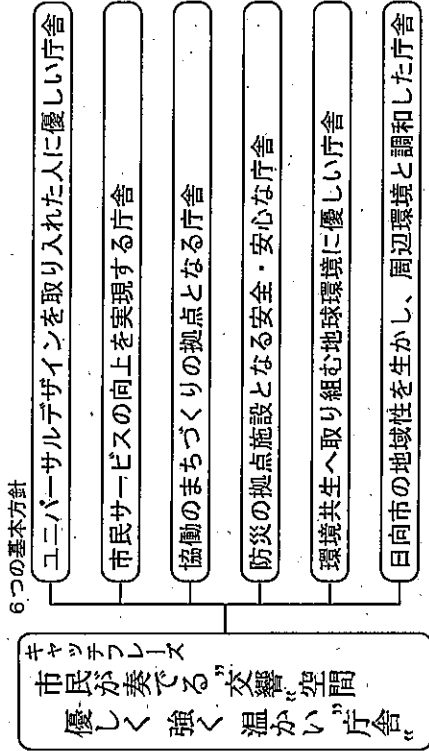
### ○設備の老朽化と環境対策

空調や照明などの設備についても、老朽化に伴いエネルギー効率が悪く、環境に優しい庁舎とは言えません。更に、老朽化に伴う維持管理費の増大も課題となっています。

### ○財政的なタイミミング

新庁舎建設の財源として想定している合併特例債の活用期限が平成32年度までとされているため、財政的な面からも速やかな事業進捗が求められます（合併特例債は、返済する元金と利息の70%が国から地方交付税で措置される有利な市債（借金）です。）。

## ◎新庁舎建設の基本方針



新庁舎建設のキャッチフレーズ「市民が奏でる“交響”空間 ～優しく 温かい “庁舎”」は、利用者や環境に優しく、災害などから市民を守る強さを備え、温かな地域社会を創るための協働のまちづくりの拠点施設として相応しい庁舎の姿を表現しています。

## ◎新庁舎の規模と構造等：延床面積12,000㎡程度（地上6階建程度）

国の基準に基づき算出した面積（11,082㎡）に、防災、協働機能を考慮し、新庁舎の延べ床面積は12,000㎡程度とします。なお、駐車場や緑地を出来るだけ広く確保するため、新庁舎については、地上6階建程度とします。また、新庁舎の構造については、南海トラフ巨大地震を想定した強固な造りとします。

## ◎新庁舎の建設場所：十分な浸水対策を施した上で現在の場所に建設

市民の利便性や中心市街地との連携等を考慮し、現在の市役所の場所へ建設することとします。なお、現在の市役所の場所には、県の津波浸水想定において30cm未満の浸水が想定されていますので、十分な浸水対策を施した上で建設することとします。

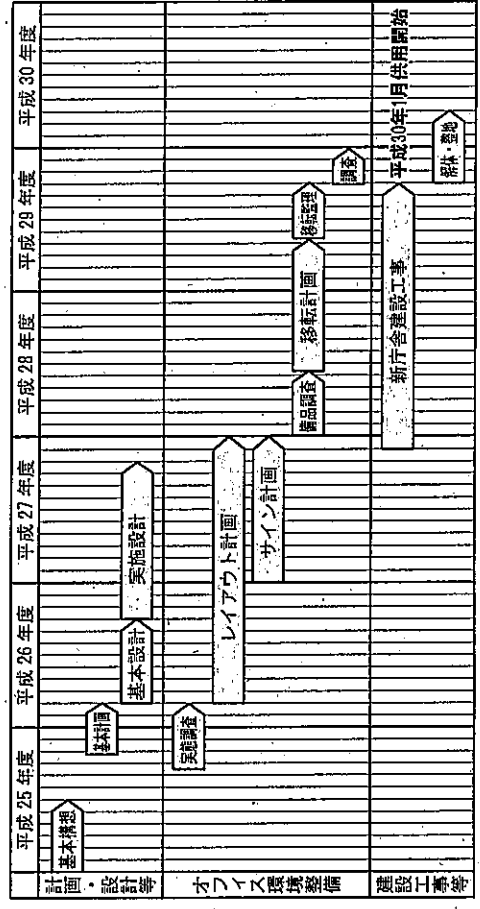
## ◎新庁舎の建設費用と財源：総事業費の上限額は45億円

最近建設または現在建設が進められている8市の工事単価と、延床面積（12,000㎡）等を勘案し、新庁舎建設の事業費の上限を45億円と設定し、今後、財政状況等を考慮しながら可能な限り節減に努めていくこととします。なお、詳細な事業費については、基本設計を進める段階で算出します。財源としては、合併特例債と基金を活用することとします。

## ◎事業者選定の考え方

新庁舎の建設に係る事業者の選定については、公平な審査基準に従い選定過程の透明性を図るとともに、豊富な経験、高度な技術力、最適な創造力などを持つ事業者を採用できる手法を検討します。なお、新庁舎建設に伴う地元経済への波及効果を促進する方策についても、事業者選定手法の検討の中で考慮することとします。

## ◎事業スケジュール





7月16日 霧島市

### 木質バイオマス発電事業



永山農林水産政策課長

内山グループ主査

鎌田グループ長

#### 発電施設の概要

- ①総事業費：約36億円(打ち補助金：16億円)
- ②敷地面積：約7.9ha
- ③定額発電出力：5,750kw

市の支援(債務負担行為：平成26～30年度 4億800万円)  
 ○年間必要量を60,000t、間伐等由来7割、一般材3割と想定  
 間伐等由来：2000円×42,000t＝8,400万円  
 一般材：1000円×18,000t＝1,800万円  
 年間合計を1億200万円  
 4年目、5年目は補助金額を半額とする

#### 雇用の創出と地域活性化

- 霧島木質発電㈱、霧島木質燃料㈱：約30人
- 燃料集荷・運送：60人程度
- 農山村の活性化にもつながる

木質

平成21年度

○バイオマスタウン構想の策定

平成22年度

○クリーンエネルギー導入調査・実証事業の実施

平成23年度

○木質ボイラー導入に向けた情報収集等の実施

平成24年

○霧島市再生可能エネルギー庁内検討委員会設置

○霧島市木質バイオマスエネルギー利活用検討委員会設置

平成25年

○「木質バイオマス発電事業を促進」市の方針を決定

○バイオマス発電調整会議設置

○鹿児島県への事業要望書提出

○市議会に補正予算を上程

○霧島市木質バイオマス発電連絡調整会議設置

平成26年

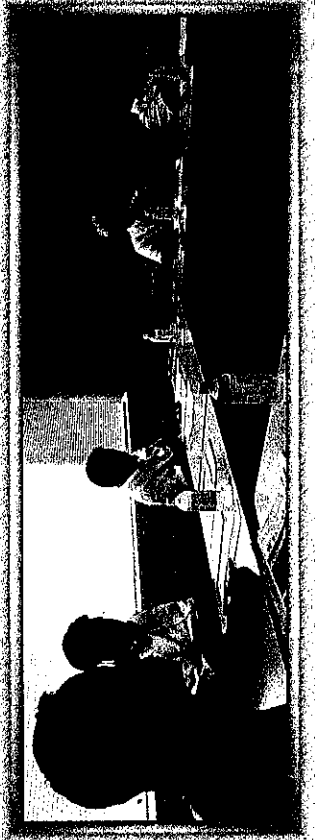
○補助金交付決定

○霧島木質燃料㈱と立地協定締結

平成27年3月

○補助金交付決定(16億円)

○5月竣工式



# 旅行報告書

会派名 公明党

会派代表者 牧下 恭之

平成27年11月20日

旅行者氏名	旅行者氏名
牧下 恭之	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

## 記

- 1 期間 自:平成27年11月16日(月曜日)  
至:平成27年11月19日(木曜日) 3泊4日
- 2 旅行先及び用務

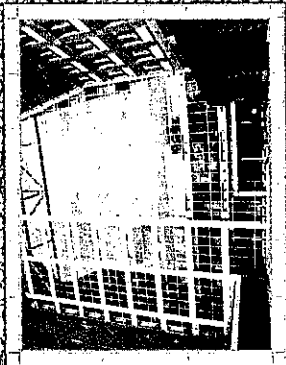
旅行先	目的
富山県富山市	農業の6次産業化等について
富山県立イタイイタイ病資料館	イタイイタイ病資料館見学等
富山県氷見市	北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について
石川県七尾市(株スギヨ)	ご当地ヒーローによる食育等企業の社会貢献活動及び企業並びに地域のPR効果等について

# 富山市「農業の6次産業化」

## 視察

### 地場もん屋総本店設置

### 牛岳温泉熱等を活用した農業の6次産業化



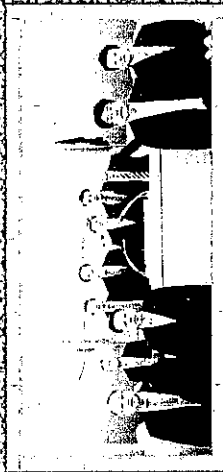
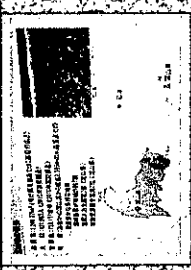
目指す都市像～コンパクトなまちづくり～

- ①公共交通の活性化
- ②公共交通沿線地区への居住促進
- ③中心市街地の活性化

総面積: 1,241Km<sup>2</sup>  
 人口: 421,953人  
 世帯数: 159,151世帯  
 特長: 海拔0mの富山湾から標高2,886mまでの水晶岳までの自然豊かな地形  
 高齢課率: 40.2%  
 農家数: 過去30年で4割減少  
 耕作放棄地の拡大

### 課題への対応

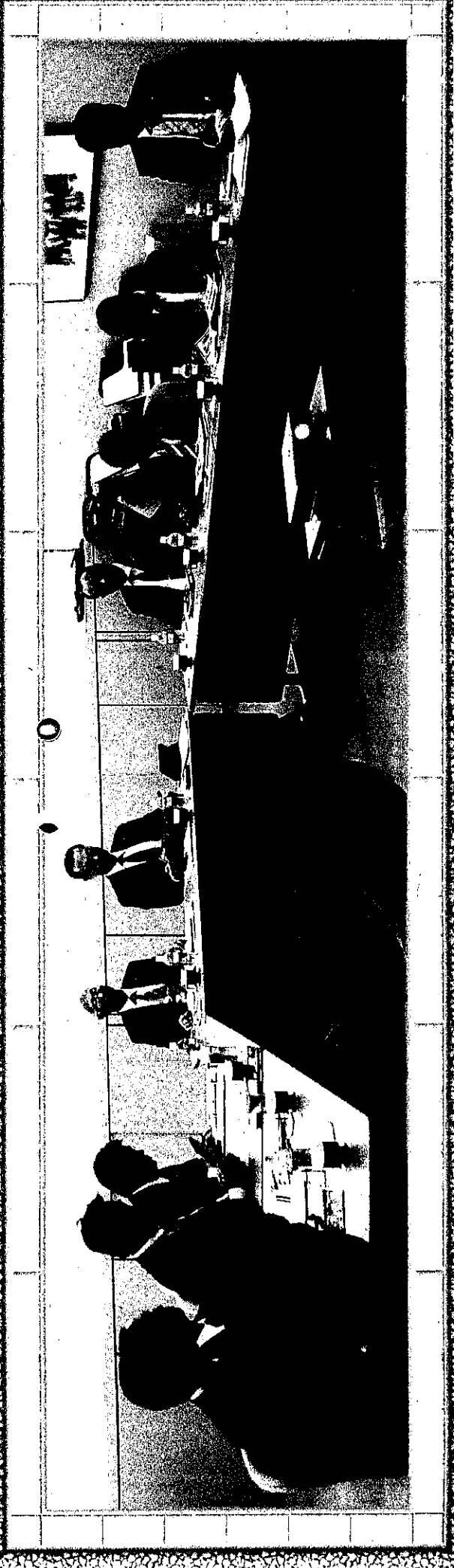
● 農業の担い手の「高齢化」と「減少」  
 ● 耕作放棄地・不作付地の拡大  
 ● 米価の低迷と米の生産調整強化  
 ?  
 ● 多様な担い手の育成  
 ● 耕作放棄地等の再生・活用  
 ?  
 ● 新たな特産物の栽培と6次産業化の推進



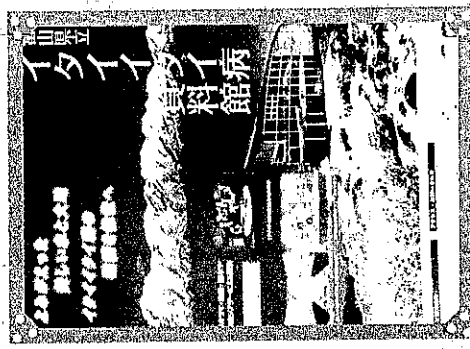
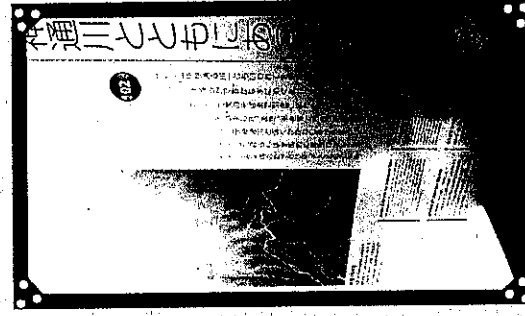
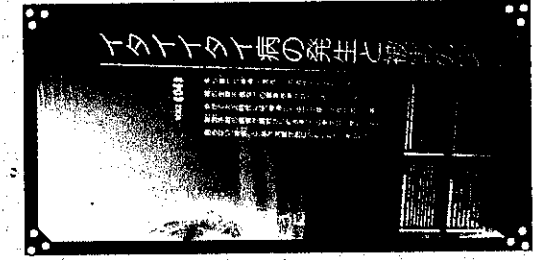
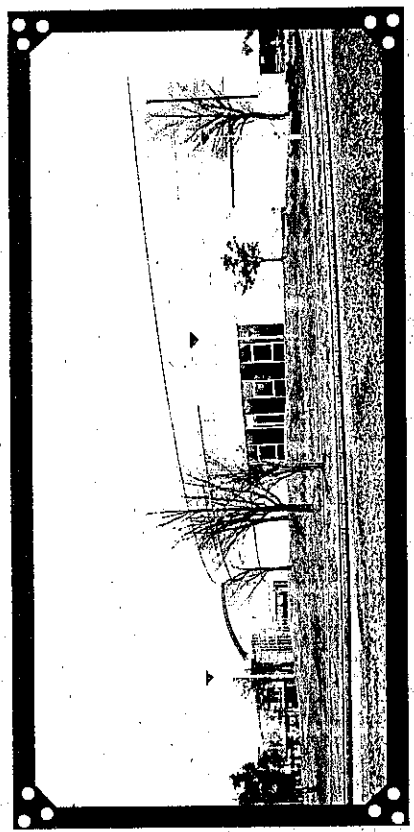
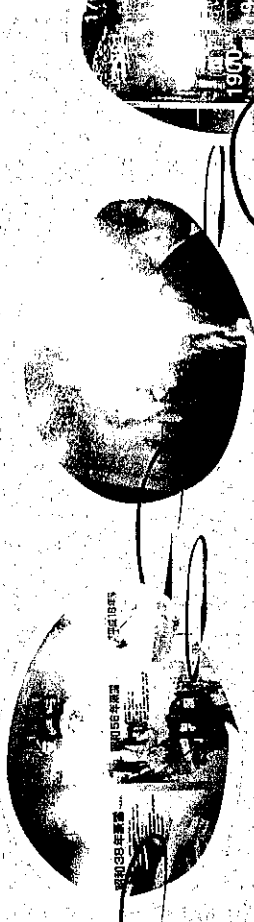
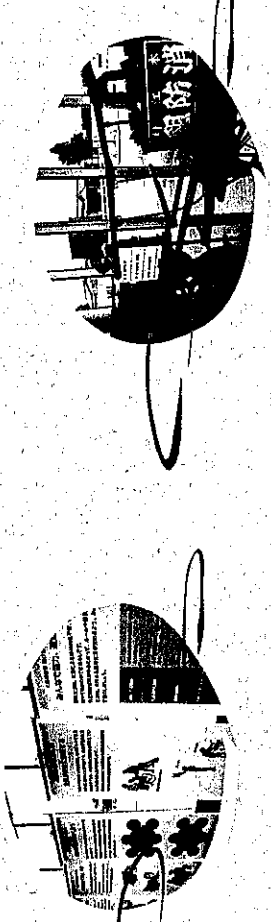
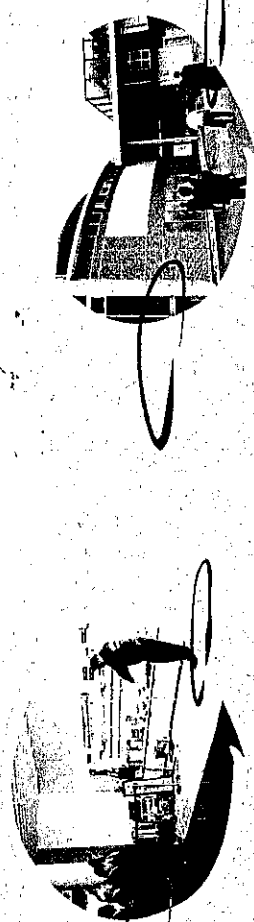
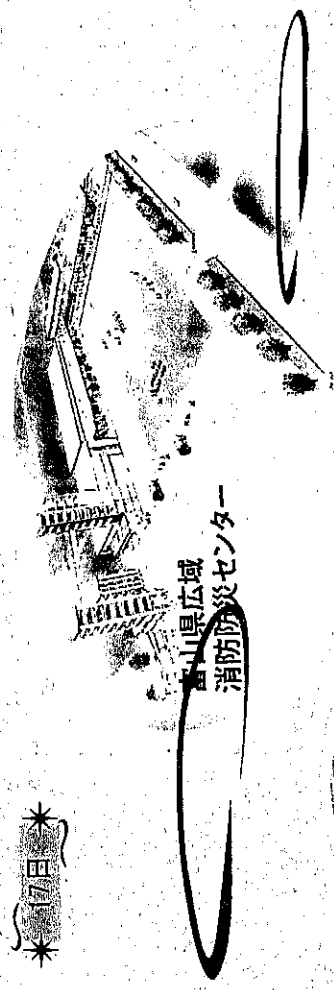
### 事業効果

- 新たな特産品の創出を契機とした地域振興・地域活性化により、富山村の畜産を維持
- 植物工場において、地元の高齢者を雇用し、高齢者の生きがい創出
- 有用な成分を含むユウゴマを病院や学校等の給食へ活用することにより、健康長寿都市を実現
- 露地栽培への展開(425ha)による耕作放棄地の解消

高齢化や過疎化が進む山田地域に植物栽培立場を整備。  
 「ユウゴマ」の生産・加工・流通販売までを一体的に行う6次産業化を推進し、地域の特産品化や雇用創出を図るとともに、健康長寿都市を目指す。







**氷見市の概要**

【市の概要】 面積13,688.95分 北緯36度51分  
 経度139度45分 人口20,369人(平成27年10月1日現在)  
 人口密度1,500.3人/平方キロメートル  
 人口増加率1.4%  
 人口減少率1.7%  
 人口増加率1.4%  
 人口減少率1.7%



平成27年度観光戦略の基本的な考え方と方向性

新幹線開業により北陸に注目が集まり、旅行者の増加、また観光情報の検索頻度が高まる。攻めと守りの両面で対策を講じている。

攻める

1. 新幹線沿線都市での観光PR
2. テレビや新聞、雑誌による情報発信
3. SNSなどソーシャルメディアによる情報拡散
4. 観光ウェブサイトの一新
5. プロモーションムービーの制作
6. 新パンフレット、ポスターの活用
7. 旅行商品の造成
8. モニターツアーの実施
9. コンベンション、教育旅行の誘致

受け皿

北陸新幹線開業を迎え、好機と変化を予測しながら戦略的思考を持って柔軟とスピード感のある観光施策を展開している

- ①情報発信の強化と検索の受け皿づくりを進める。
- ・情報発信では、北陸新幹線沿線の主要都市に向けて積極的な観光PRを展開。
  - ・情報づくりでは、観光ウェブサイトを「木と木と費どっとコム」の一新、プロモーションムービーの制作、新パンフレット、ポスターの活用を行う。
  - ・見るものに行ってみたいと思わせる演出と、グッとくる状態を作り出す。

旅行会社への働きかけの成果①

旅行会社ハンプレットの  
 教諭「富山」が掲載  
 平成24年度 下半期 (2012.10~2013.3)  
 平成27年度 上半期 (2015.3~9)

2 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ前)

3 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

4 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

5 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

6 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

天・然・ふ・り

旅行会社への働きかけの成果②

旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ前)

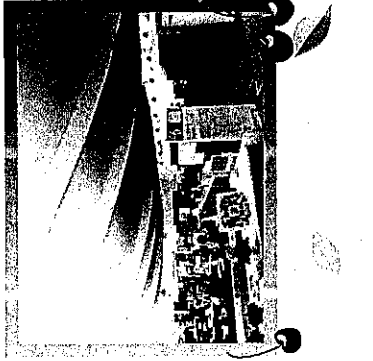
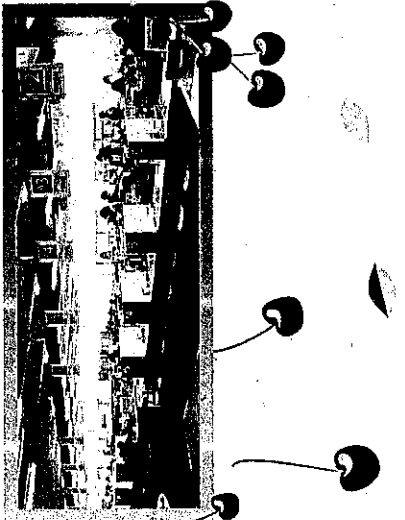
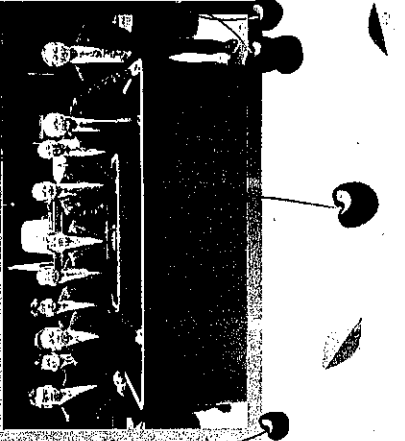
2 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

3 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

4 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

5 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)

6 旅行会社ハンプレットで「富山」が掲載に成功 (働きかけ後)



- ②氷見の魅力を体験できる受け皿づくりを進める。
- ・旅の感動づくりでは、印象に残る体験プランの用意。食の魅力に触れる「ひみ永久グルメ博」の拡充開催、まんがロードの魅力アップなどを行う。
  - ・旅の快適さづくりでは、おもてなし研修による接客力の向上、バスなどの2次交通の整備、Wi-Fiやカード決済の推進を行う。
  - ・旅先としての価値を上げ、氷見ファンづくりを進める。